

11.11.H27

高齢者デイサービス「みのりの庭」のガーデンテラスで、園芸福祉のプログラムを実践して早3年半。今期は「みのりの庭」2号店が世田谷にオープンした（h27年4月10日）。緑と触れ合える開放的な空間は、そこに佇むだけで心が安らぐと、世田谷の「みのりの庭」を見学に来た誰もが口をそろえる。地域の多くの方が関心を寄せて下さり、高齢者と交流する機会・場としてのみならず、地域福祉の実践の場としてぐりーん・さいと/「みのりの庭」が期待されていることを実感した。緑がある所に人が集まり、繋がり、広がり、地域の力を生み出す拠点になりつつあることを、様々な分野の方々の声を聞いてその思いを強くした。



h27年春の庭 国分寺



h27年春の庭 世田谷

みのりの庭 世田谷
オープニングイベント
～菜・花・間(なかま)の会～
野菜の種と苗の植え付け会
協力:soyプラン h27/4/11

1- ～園芸福祉活動～

1) 園芸活動を通じて地域の高齢者の生活の支援を行う

園芸活動は、植物という「静かないのち」に向き合う優しい時間を提供してくれる。そのひと時を馴染みの仲間と過ごす楽しみが、通所への意欲となり力となって、それぞれのご利用者の生活を支えてくれている様だ。表情が変わってきた、関わりが和やかになったなど、ご家族からの小さな変化を喜ぶ声も多く聞かれた。小さな命が種から芽生え成長し、花をつけて実り、色々な形で私たちに楽しみをもたらしてくれる、その一連の過程をさらに深める活動を今期は意識した。

① 稲の収穫・利用（国分寺）

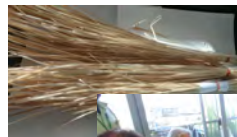
*昨年度から栽培していた稲をいよいよ収穫。手作業で行った脱穀→粃摺りは利用者の皆さんにとって地道で骨の折れる作業だったが、このたびやっと玄米粥にして食する事が出来た。稲藁では正月飾りを作り、稲の成長と利用を通してそれぞれの郷愁を誘い、達成感の得られるプログラムと好評を得た。



h26 10月 稲刈り



h26 12月 藁打ち



正月飾り作り

② 麦の栽培（国分寺）

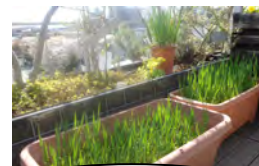
*冬場の庭を緑で明るくする麦の栽培を行った。元気な麦から得られるパワーと麦茶作りを目指して大麦、小麦2種類の種を蒔き、その違いも学習した。予想外の5月の高温でダメージを受け、麦茶に出来る量の収穫はできなかったが、皆さんの懐かしい記憶に働きかける機会になった。麦の穂はクリスマスリースに利用する予定。



h26 11月麦の種まき



h26年12月室内で麦踏



h27 早春の麦



5月刈り入れ

③ ハーブの寄せ植え（国分寺）

*月日を重ねて親しんできたハーブを、自宅でも育ててみたいとの皆さんのリクエストにより、挿し穂で増やした馴染みのハーブ（ラベンダー、ローズマリー、タイム、ミント他）を、手作りの鉢に寄せ植えをした。ハーブの様々な効用を学習しながら行う五感刺激作業は、心地良い香りによる嗅覚への働きかけが大きい。自宅での継続した世話も、皆さんの責任感を促す。





h26 10月ローズマリーの挿し穂

6月 寄せ植え



④ 世田谷での園芸プログラム

植物への関心や経験が様々な世田谷の皆さんへのアプローチは、香りが豊かで体の役に立つハーブに触れてもらう事から始め、負担なく園芸を楽しめるようなプログラムを工夫した。

緑溢れるテラスでは、野菜が次々と実をつける様子を見て、触れて、食して、作ってと楽しみを上げられ、色々なワクワクを体験して頂いた。



6月 野菜の収穫

6月 ハーブピアー



7月 紫陽花の剪定

8月 苔玉作り



2- ～地域作りの推進を図る活動～

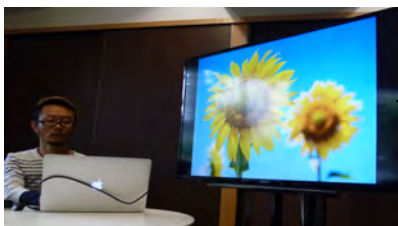
※「テラス みのりの庭 世田谷」の活動から

4月のオープン当初から、地域での関心と呼び、多くの方が足を運んで下さり、高い共感を得られた。地域の方と高齢者のふれあいの機会だけでなく、地域の方同志の接着剤として「植物と隣り合わせの場所」のちからが期待される。

1) 地域ボランティアとのイベント交流

※様々な地域ボランティアの協力により、デイサービスの活動に活気が生まれた。イベントを通しての世代間交流から双方にもたらされる相乗効果は大きく、皆さんの笑顔があふれる時間となる。

(音楽会、絵手紙、花の写真、フラダンス、手芸、ギター、ピアノ、竹笛、クラフトなど、
延べ人数約40名)



近藤さんの
花のスライドショー

絵手紙教室



2) 地域との交流の集い

花の話と園芸相談会
～小菊の挿し木など～
主催:若林街づくり協議会
h27/6/20



認知症カフェ
～訪問診療医とおしゃべりしながら
認知症相談・交流会～
h27/9/13
主催:ケアコミュニティーせたカフェ



(街角防災教室6/28、七夕まつり7/5、若林鎮守三社例大祭9/13、介護協同組合勉強会9/29 など)

3) 今後の課題～仲間を育てる

今、社会は高齢化に向けて加速中である。並びに地域との関係性が希薄になり、お隣の方との関わりもままならない。住み慣れた我が家で暮らしてゆくためには、地域の中で、世代を超えた人たちが、触れ合い、活動できる場所が必要。その居場所作りとして、「緑のチカラ」が大いに期待されている。

この4年、「みのりの庭」の活動は、ボランティア仲間の陰の力に大きく支えられた。店頭広告で呼びかけた仲間は、2-3人の小さな輪からスタートした。庭作業だけでなく、プログラムの企画や、ご利用者のクラフト活動サポートにも携わっていただいている。定例部会を開き、デイサービスでの活動を振り返り、今後の展開を相談する。庭の管理作業を通じて、仲間同士のコミュニケーションを図り、情報交換と、それぞれの活動を報告し合う。通所されるご利用者の生活が、花や緑と関わる中でどう変わられていったか、在宅生活の質がどう改善されているかを、共有してゆくうちに、仲間の意識も高まり、さらなる活動意欲の芽生えになる。が、ボランティアの活動を推進するには、運営面の人的資力も欠かせない。

地域の方との顔の見える関係づくりは、仲間を作り、小さな繋がり輪を地域に向けて発信するチカラに、どう育ててゆくことが目下の課題である。

★ ぐりーん・さいとの活動の様子は、随時「ブログ」（[ホーム](#) みのりの庭の活動から）にて発信しています。ぜひ、ご覧ください。